

講義名	日本語D（話す）【留学生科目】			授業形態	
担当教員	野村 由香里	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

・授業の前半は、学生が自発的に話す事に重きを置いた「ディスカッション」「スピーチ」を行う。
 ・後半は留学生が音程、連発しそうな目上の入を認識した敬語を含む日本語表現を身につけることができるよう学習する。

到達目標

・留学生が自発的に日本語でスムーズにコミュニケーションを取れるようになる。
 ・留学生が目上の人と接する時に必要な表現や、敬語、マナー等を身につけられる。

提出課題

授業中に指示

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業時に個別に指示

評価の基準

授業内発表点60%
 中間試験15%
 期末試験15%
 評価表点10%

履修にあたっての注意・助言他

1. 出欠確認は毎回点呼を行う
2. 5回以上欠席した場合は期末試験を受けることができない
3. 授業が始まって15分以内の入室は遅刻とみなし、遅刻3回で1回の欠席となる
4. 15分以上の遅刻は欠席とみなす（授業は受けてもよい）
5. 授業時には辞書を携帯すること

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

. 会話に挑戦 中級前期からの日本語ロールプレイ.	中居 順子他	スリーエーネットワーク	2400	9784883193615
. 新日本語敬語トレーニング.	金子広幸	アスク	2000	9784872178562

その他

1 ISBN978-4-88319-355-4 『日本語上級話者へのかけはし』 萩原雅佳子他 スリーエーネットワーク 2008
 ISBN978-4-88319-449-0 『日本語超級話者へのかけはし』 萩原雅佳子他 スリーエーネットワーク 2008

授業計画

1. 授業ガイダンス(受講上の注意点 / 自己紹介)
2. ディスカッション1
3. ディスカッション2
4. ディスカッション3
5. スピーチ1
6. スピーチ2
7. スピーチ3
8. 中間試験(スピーチ)
9. 会話テーマ「先生を飲み会に誘う」
10. 会話発表
11. 会話テーマ「先生に訂正を求める」
12. 会話発表
13. 会話テーマ「医者に症状を説明する」
14. 会話発表
15. 会話テーマ「日にちの変更を求める」

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習 120分
 ・教科書に出てくる新しい語彙や表現等の意味を調べておく
 復習 120分
 ・授業時に学習した表現や語彙を使った会話を作成し、暗記しておく

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得は流通科学大学の定めるディプロマシー「知識を知恵に転換することができる論理的思考を持った人材」の育成に際しての。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考